

代表質問

この定例会では、議案や市政全般について、各会派を代表して6人の議員が質問し、活発な議論を展開しました。その概要は、次のとおりです。
 なお、各会派の紙面の割合は、会派所属議員数に応じて案分しています。

会派名	議員数	質問時間
水曜会	13人	120分
公明党	7人	120分
誠友会	4人	120分
市民連合	4人	120分
日本共産党	4人	120分
新政クラブ	3人	120分

*代表質問の録画放送をインターネットで見ることができます。(詳細は下段)

水曜会



おおた 祐介

豪雨災害対策事業費は

問 今年(2019年度)は5月1日に御代替わりが行われ、新元号元年となる。市長の言う「未来を切り拓く予算」では、抜本的な浸水対策として、芦田川・手城川・福川・高屋川・小田川流域等多

くの対策が計画されているが、今後5年間の総事業費見込みは、

答 昨年7月の豪雨災害直後、「二度と床上浸水被害は起こさない」という強い決意で抜本的な浸水対策に取り組むと市民に約束したが、2019年度からおおむね5年間の浸水対策をこのたび取りまとめることができた。

このうち本市の2019年度の事業費は、約15億3千万円である。また、今後5年間の総事業費については、現時点で約240億円を見込んでいる。

鞆のまちづくりは

問 人口4千人を割ったが、広島県と連携したまちづくりの計画や、新たな基金の具体は。

答 まずは長年の課題であった山側トンネルの完成に向けて、県・市で連携して取り組む。市としては、町並み保存拠点施設整備や下水道整備、伝建地区の修理等に引き続き取り組む。
 まちづくりに終わりはなく、我が国の誇る歴史と伝統、文化が息づく鞆の魅力を守り続けながら、

鞆町の再生、活性化を着実に進める。

2019年度から県・市の連名で、募集期間を10年間、目標額を6億円として「まちづくり基金」への寄付を募集し、そのうちの5億円を本市へ交付することとしている。

この基金は、鞆の歴史的な価値や伝統文化、江戸時代からの町並みや景観を未来に継承するための施策に活用するものとしている。具体的な使途は今後、地元の見解を聞いて決める予定である。

芦田川河口堰の開放に向けて

問 市長は「水五訓」という人生訓を引用し、前例にとらわれず常に挑戦すると言われた。河口堰を開放すると出原浄水場の水源が塩水化する可能性がある

あると従来説明があったが、鹿児島県の川内川では河床を横断して敷設したパイプから気泡を発生させて、塩水の浸入を抑制している。
 将来的な河口堰開放に向け、まずは潮止めの方法について研

究し、長期的な視野に立ち、あらゆる観点から開放の方策を研究してはどうか。

答 河口堰の操作を変更することについては、工業用水の水源確保をはじめ、塩害対策や治水対策さらに農業、漁業への影響やその関係者の理解、関係者間の調整など、検討すべき課題が多い。

今後の水需要の動向、社会情勢の変化等も踏まえながら、中・長期的な視野に立ち研究していく必要がある。提案があった川内川の事例についても研究する。

* 3月定例会の代表質問の録画放送を見る場合

福山市のホームページ → 福山市議会 → 議会中継 → ここからご覧ください。